

新生活の4月に多い傾向

【スプレー缶等が関連した火災統計について】

スプレー缶やカセットボンベが関連する火災が度々発生しています。

これらの火災は爆発や破裂を伴うこともあり、局所的な被害が大きく死傷者が発生しやすい特徴があります。特に4月に多い傾向があることから、新年度の慌ただしさや新生活が始まったことによるちょっとした不注意からの火災を予防するため、過去20年間の関連火災の統計と事事故例をまとめましたのでお知らせします。

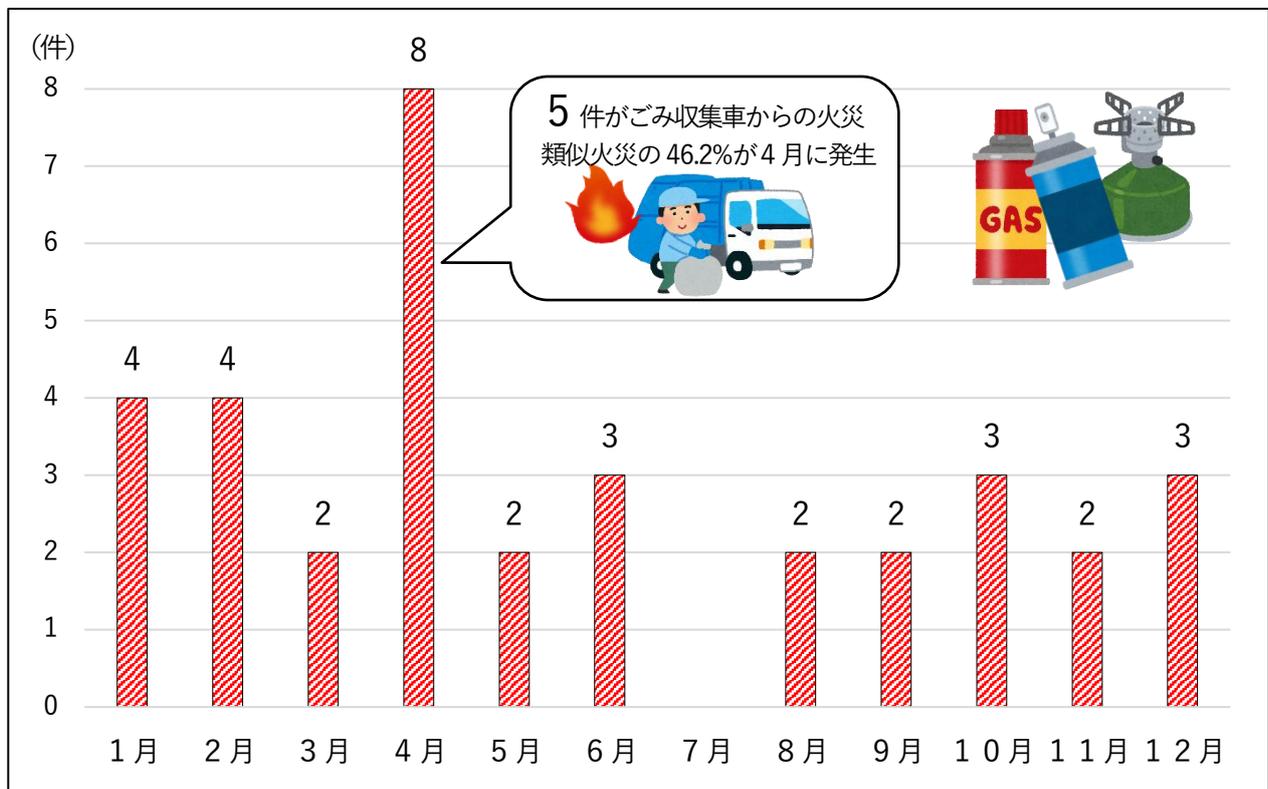
※ 統計は、郡山地方広域消防組合管内における2004年から2023年までの数値。

※ 小数点のある数値は、小数第二位を四捨五入して表記。

■ 月別の火災発生件数

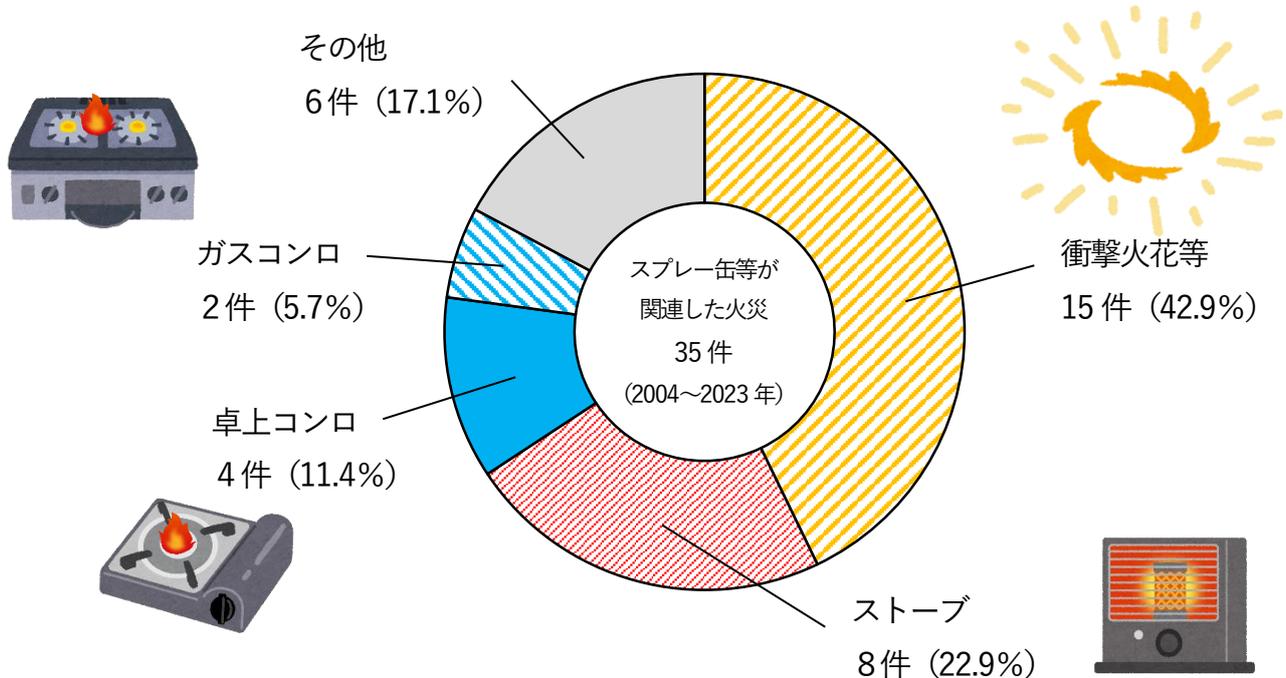
スプレー缶等が関連した火災は過去20年間で35件発生しており、月別にみると最も多いのが4月で8件、次いで1月、2月が4件と続きます。

4月の火災件数（8件）のうち、ごみ収集車からの火災が5件（62.5%）となっています。（具体的な事例は3枚目の資料を参照）



■ 発火源別の火災件数

火災発生件数を発火源別にみると、最も多いのが「衝撃火花等」で15件（42.9%）、次いで「ストーブ」が8件（22.9%）、卓上コンロが4件（11.4%）と続きます。

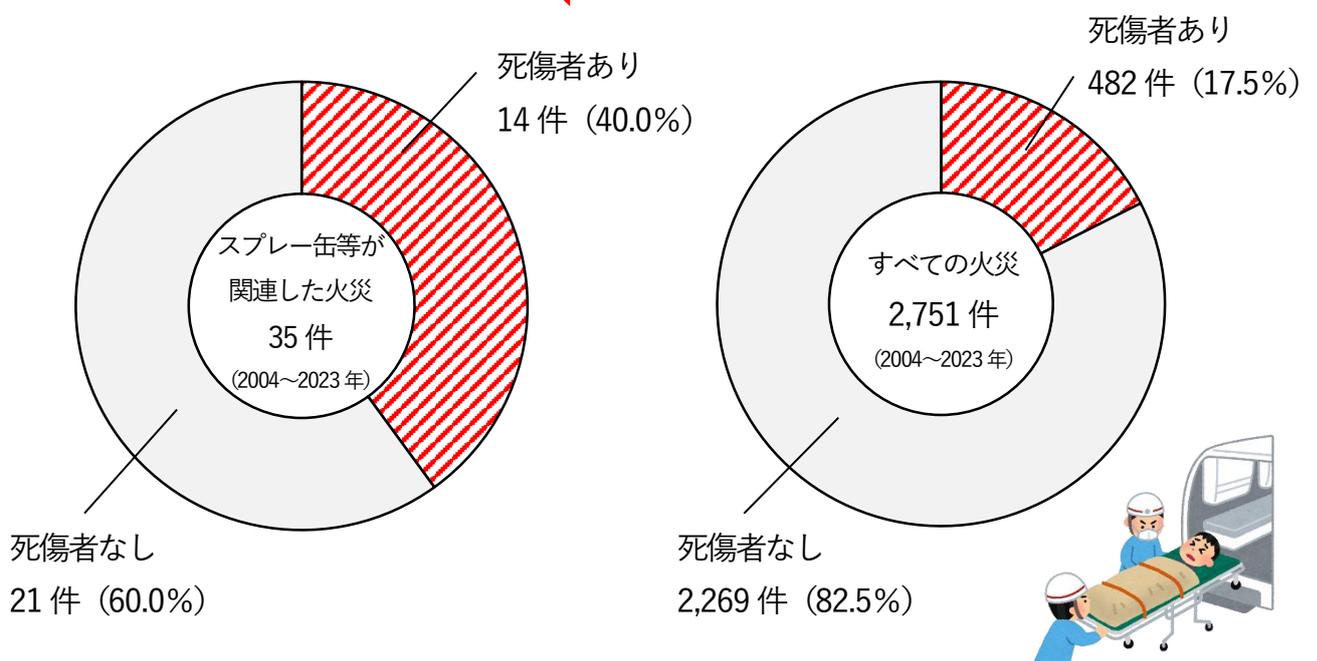


■ 死傷者の発生率

スプレー缶等が関連した火災 35 件のうち 14 件で死傷者が発生しています。

死傷者の発生率は 40.0% で、同期間のすべての火災における死傷者発生率 17.5% と比べ、約 2.3 倍の発生率となっています。

死傷者発生率 40.0% **約 2.3 倍** 死傷者発生率 17.5%



■ 火災事例

- (1) 収集したごみの中に、LP ガスが残ったままのスプレー缶が入っており、ごみを収集車に取り込むための回転板に圧縮された際にガスが漏れ出し、そのガスに回転板の衝撃で生じた火花が引火し火災となったもの。
- (2) 卓上コンロにて調理しようとしたところ、カセットボンベの固定不良によりLP ガスが漏れ、点火した際に周囲へ漏れたガスに引火し火災となったもの
- (3) 物置を閉め切った状態でストーブをつけ、パーツクリーナーで自転車のチェーンの清掃をしていたところ、ストーブの火が引火し火災となったもの。
- (4) 台所で使用済みのスプレー缶を処分するため穴あけをしていたところ、スプレー缶に残っていたLP ガスが噴出し、近くのコンロの火が引火し火災となったもの。
- (5) 整備作業所内で塗料のスプレー缶を温度管理せずに高温のお湯で温めていたところ、スプレー缶が破裂し漏れたLP ガスに近くで使用していた瞬間湯沸器の火が引火し火災となったもの。

■ 注意のポイント

- (1) 保 管
 - ◆ 直射日光のあたる所（車の中など）や火気（ストーブやコンロ）の近くには置かない。
 - ◆ 缶のさびを防ぐために、水回りや湿気の多い場所には置かない。
- (2) 使 用
 - ◆ 取扱い説明をよく読み、用途を守って使用する。
 - ◆ 火気（ストーブやコンロ）の近くでは使用しない。
 - ◆ 屋内で大量に噴射した直後に火気（喫煙時のライターやマッチなど）を使用しない。
- (3) 処 分
 - ◆ 使い切ってから処分する。
 - ◆ 居住する自治体の処分方法を守って廃棄する。
 - ◆ ガス抜きのための穴あけは、風通しの良い屋外で行う。